

## プラネタリウム(カールツァイス 2 型 25 号機) 1 基

プラネタリウム(カールツァイス 2 型 25 号機)

プラネタリウム(カールツァイス 2 がた 25 ごうき)

### 分野／部門

有形文化財／歴史資料

### 所有者

大阪市

### 所在地

大阪市北区中之島 4 大阪市立科学館

### 紹介



昭和 12 年(1937)3 月に開館した大阪市立電気科学館の目玉として設置されたのがプラネタリウムである。

大阪市は、昭和 8 年(1933)に電気供給事業 10 周年を祝い、電気知識を啓発するための施設として、大阪市立電気科学館の建設を計画した。館の開館準備のため欧米を視察した木津谷電灯部長は、当時ツァイス社で製作がはじめられたプラネタリウムの導入を提案した。さらに、小畠技師(後に初代電気科学館長)が海外調査を行い、プラネタリウムは現代科学の粋を結集した装置であり、電気知識を啓発し、電気科学館を世界に誇れる施設にするには是非とも必要なものであるとの調査報告を行った。

この報告を受け、昭和 9 年 12 月、平塚米次郎電気局長の英断によってプラネタリウムの導入が決定された。しかし、プラネタリウムの価格は当時小学校 2～3 校の建設費にあたる 46 万円にのぼり、大きな議論が起こったという。京都大学山本一清教授の協力のもとに、議会の承認も得て、建設決定の運びとなった。

ツァイス社では 1923 年に北天のみを投影する小型機 1 型を完成させた。その後、1926 年には全天を投影できる大型機 2 型を完成させた。昭和 12 年 3 月の開館披露とともに、2 型の 25 号機が東洋圏で初めてのプラネタリウムとして一般公開された。

このカールツアイス 2 型 25 号機のプラネタリウムは、電気科学館が閉館した平成元年(1989)5 月まで、半世紀を越えて活躍し、市民に親しまれてきた。

なお、カールツアイス 2 型のプラネタリウムは、世界中でも 3 基しか現存せず、本件はそのうちの 1 基である。

#### 参考文献

伊東昌市『地上に星空を』(裳華房 1998 年)